

2023年5月15日

各位

会社名 データセクション株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 林 健人
(コード番号：3905 東証グロース)
問い合わせ先 取締役 CFO 岩田 真一
TEL. 050-3649-4858

**営業外収益、特別損失、法人税等調整額の計上及び
通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ**

当社は、2023年3月期において、下記のとおり営業外収益（為替差益及び受取配当金）、特別損失（のれん償却費、減損損失及び投資有価証券評価損）、法人税等調整額を計上いたしましたのでお知らせいたします。

また、2022年5月13日にて公表いたしました2023年3月期の通期業績予想と、本日公表の実績値との差異について、併せてお知らせいたします。

記

1. 営業外収益、特別損失及び法人税等調整額の計上について

(営業外収益)

当社が保有する外貨建債権等の評価替えに際し、円安が進行したことから、為替差益として67百万円を計上いたしました。また、非連結子会社からの配当による受取配当金7百万円等を計上いたしました。

(特別損失)

経営環境の変化等により当初の事業計画からの乖離が生じ、一時的に超過収益力が見込めなくなった子会社（Jach Technology SpA）について減損処理を行った結果、のれん償却費として461百万円を計上いたしました。また、当社の保有する固定資産の一部について減損の兆候が認められたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく回収可能性を検討した結果、減損損失170百万円等を計上いたしました。加えて、当社が保有する投資有価証券の一部について、取得価額に比べて実質価額が著しく下落したため、減損処理により投資有価証券評価損として13百万円を計上いたしました。

(法人税等調整額)

現時点での将来の課税所得を見積り、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産を計上することとし、これにより法人税等調整額（益）32百万円を計上いたしました。

2. 2023年3月期 通期業績予想と実績との差異について

(1) 連結業績予想数値と実績値との差異（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	調整後 EBITDA	経常利益	親会社株 主に帰属 する当期 純利益	1株当 たり当 期純利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,000 ～2,200	△200 ～10	148 ～358	△215 ～△5	△275 ～△72	△19.36 ～△5.04
今回実績（B）	1,925	△56	688	41	△534	△36.73
増減額（B－A）	△75 ～△275	144 ～△66	540 ～330	256 ～46	△259 ～△462	—
増減率（％）	△3.8% ～△12.5%	—	329.7% ～77.7%	—	—	—
（参考）前期連結実績 （2022年3月期）	1,692	77	301	165	2	0.17

(2) 差異が生じた理由

売上高につきましては、2022年5月13日の公表では、既存サービスが堅調に推移した際の下限値を2,000百万円とし、海外の成長、M&A、新規案件の獲得を見込んだ上限値を2,200百万円として見込んでおりました。連結子会社の株式会社ディーエスエスにおいてシステム開発案件の受注が増加したこと、海外連結子会社各社においてサービスの受注が増加していること等から過去最高売上高となりましたが、一部国内で見込んでいた大型案件の受注が遅れたこと等から、売上高は業績予想を下回る結果となりました。

営業利益につきましては、当初、更なる成長性実現のための採用強化を含む人件費増加、マーケティング機能強化のためのプロモーション費用投入等のため、△200百万円～10百万円を見込んでおりましたが、計画を精緻に見直し予算管理を行った結果、人件費を始めとする各種コストを予算内に収めることができたことから、業績予想レンジの下限を上回る結果となりました。

経常利益につきましては、「1. 営業外収益及び特別損失の計上について」に記載した為替差益や受取配当金を営業外収益に計上したこと等により、業績予想レンジの上限を上回る結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、2022年11月11日付「2023年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載のとおり投資有価証券売却益102百万円を特別利益に計上した一方、「1. 営業外収益及び特別損失の計上について」に記載したと

おり、のれん償却費、減損損失及び投資有価証券評価損を特別損失として計上し、また、法人税等調整額（益）を計上したこと等により、業績予想を下回る結果となりました。

以上